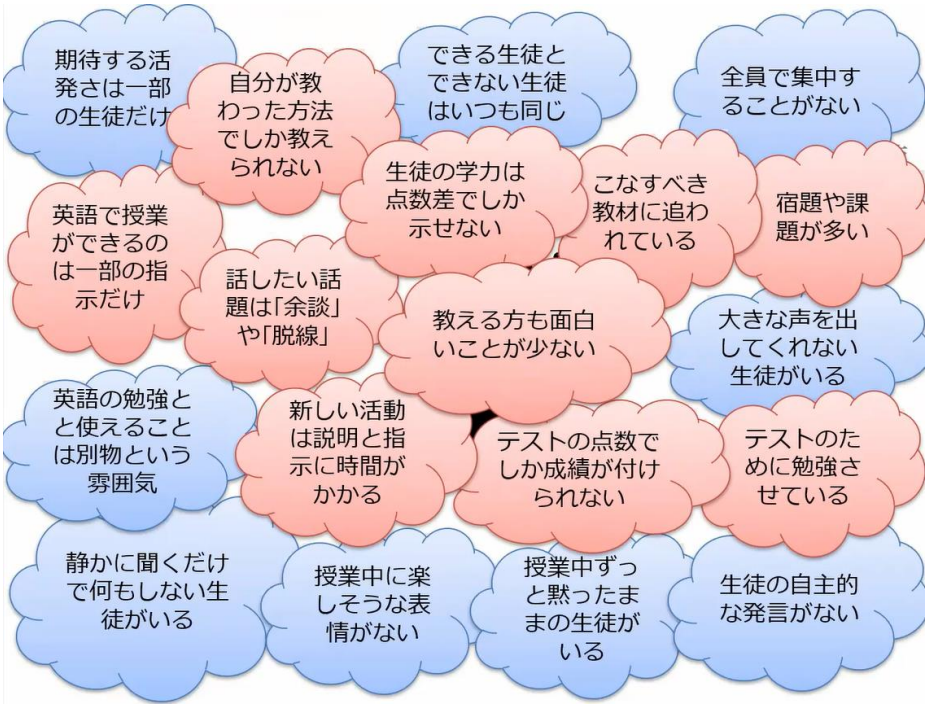
第 13 回研究会 2022 年 5 月 15 日

スパルタンイングリッシュ第 13 回は第 12 回に引き続いて，元･東京都立両国高校附属中学校の杉本薫先生を講師にお招きしての講演会です。前回の記録で，ハウツーやアクティビティ紹介ではない，授業の本質についてお話しいただけたと報告しましたが，さすが杉本先生！今回は，杉本先生の「授業を変えた３つの言語活動」として、授業を変えた［Bingo］［Pairwaork］［Small Talk］の３つの言語活動について，お話いただきました。英語教師からすると，どの活動もよく目にすることの多いものです。さらには，ビンゴってただのゲームで，言語活動でもコミュニケーションじゃないのでは？と一見すると思われてしまいそうなところですが，いやいや，そうじゃないんですよというところを，実例を交えてじっくりお話下さいました。青森県内の中学校の先生を中心に，北は北海道から南は岡山まで全国から合計 21 名の参加がありました。

授業の分岐点

- ✓ １校目は，生徒指導に追われて，授業のことを考える余裕すらなかった。
- ✓ ２校目で長先生と同じ学校になったこともあり，授業についていろいろと考えるようになった。
- ✓ ただ，そうはいっても，なかなかうまくいかなくて，モヤモヤしたものを心に抱えていた。
- ✓ 当時抱えていたモヤモヤをあげるとすると以下のようなもの



授業を変えた３つの言語活動

- ✓ BINGO，Small Talk，Pair Work の３つ
- ✓ これらは，今後も「授業を変える」３つの言語活動になると期待している。
- ✓ 一番授業の核となる「言語活動」をじっくり丁寧にお話したい。

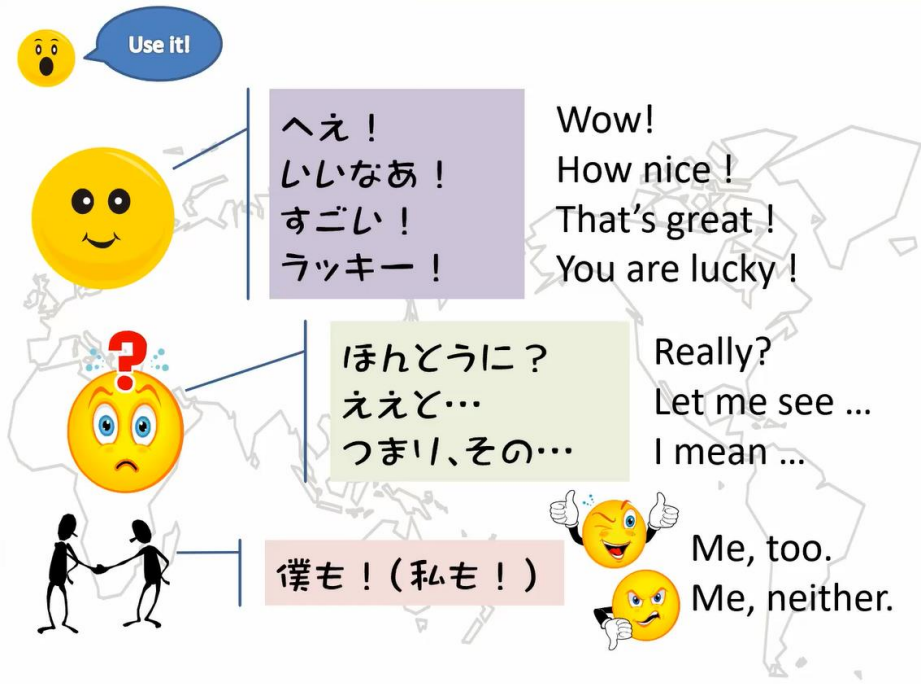
BINGO　３つの言語活動第１の視点

✓ 指導の流れ

1. Let's play Bingo! Yes, let's!
2. Word Flash（https://www.hamajima.co.jp/teachers/word-flash/）を使って単語の練習
3. BGM をかけて Bingo のゲームをする
4. 最初にビンゴになった生徒を確認
5. １分間与えて次のビンゴを書く
   ※長先生から教わったこと＝「宿題・課題のやりはじめは学校で」が基本スタイル。残りをやってきなさいとする。
6. Map Talk：pair & demo
7. リーチは何ていうか？ALT と相談して，One short!とした。

✓ **なぜ，BINGO は言語活動になるのか？**

1. ビンゴに付属しているマップを使って，「どこにいるの？」「２つ先に言っているよ」「２つ遅れているよ」などのペアワークに拡張することができる
2. この会話の時に，以下のような会話表現を自然に指導することができる。



3. 毎日毎日やっているので，たくさん導入することもできるし，例えば「今日はこの中で Wow！を意識して使ってみよう」とすることもできる。
4. また，エコー（「I'm in London.」に対して「Oh, you're in London.」と返すこと）もここで繰り返し指導・練習させることができる。
5. 慣れてくると（中１の５月くらい）になると過去形を使って，Where were you last time? I was

in Paris last time.のような会話まで拡張できるようになる。

6. 教科書に「過去形」がでてくるのを待たないで，まねして言えることはどんどん言わせる。
7. さらに，夏くらいになると，Where will you go next? I will go to Chicago next.という表現まで拡張させる。
8. さらに，中２になると，How long have you been there? I've just arrived here/I've been here for three days.のような表現まで拡張させる。
9. 教科書で現在完了形が出てくるのは中３だが，そこではできるようになったことを説明するだけ。その前に，授業の開始５分で毎日毎日使わせておく。
10. BINGO で使える表現

11. あくまでビンゴの地図はスタートで，その後の会話は，自由に進めさせる。

ビンゴが杉本先生に与えた衝撃

- ✓ 全員参加の衝撃：BINGO に出会う前の授業は，ひとつの教室に「やれる子もいるし，やれない子もいる」が当たり前になっていた。
- ✓ ビンゴは，気がつくと全員が一生懸命になってやっている，こういうものはやっぱり楽しいということに気がついた。
- ✓ ひとりも残さない→誰でもできる
- ✓ 誰でも勝ちたい→誰でも勝てるチャンスがある
- ✓ 一生懸命聴く→誰もが集中
- ✓ 負けても楽しい，勝てればなおさら→誰もが楽しい（ゲーム性）
- ✓ 英語に慣れて，使えるようになる→誰もが使える
- ✓ 時制は使いながら慣れる→誰もが分かる（説明は教科書に出てきたころに）

※できるようになってから説明する，「いつもやってるあれだよね」といえる状況で説明できることが理想。現在完了の完了用法などは，そのために場面を設定して活動させようとすると，すごくわざとらしくなってしまう。そんな時，BINGO で毎回やってるというのはすごく強い。

現在完了を公式のように日本語で説明できないけど，How long have you been there?という問いに，I've just arrived here.と口をついて出てくる生徒
現在完了形を公式のように，日本語でルールを説明できるけど，質問にすぐに答えられない生徒

どっちがいいの？
だから
説明はあと
「使えること」と「言葉で説明できること」はまったく別のこと

参加者から

Q：杉本先生は，初任校が生徒指導で大変だったとお話されていましたが，そのころは BINGO にであってなかったのですか？
A：（杉本先生）見る影もなかったです。
Q：もし，今，その時代に戻れるとしたら BINGO をやりますか？どんな効果があると思いますか？
A：（杉本先生）もちろん，ビンゴやります。もっとゲーム性を高めて，遊んでるんじゃないか？と生徒に錯覚させるようにやります。ビンゴをやることによって，英検何級とかではなく，少なくとも英語を嫌いにさせることはなかったと思います。

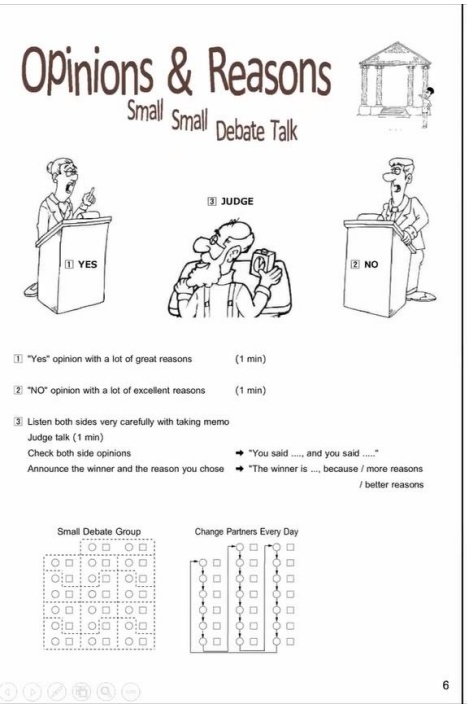
Small Talk　３つの言語活動第２の視点

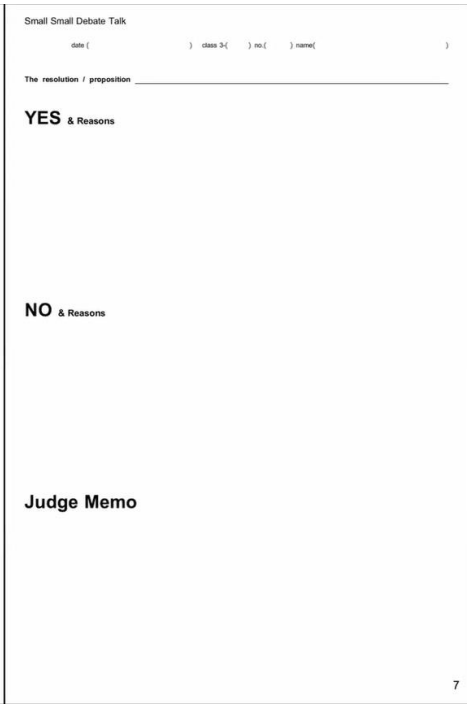
- ✓ いろいろな形式があるが，生徒 VS 生徒の形式。
- ✓ BINGO で全員参加の衝撃の話をしたが，それを受けて「全員参加」を 50 分スタンダードにしようと工夫した。当然，Small Talk も。
- ✓ 「話題」は大事
- ✓ どうやるか How to よりも，何を話させるか What to の方が大事
- ✓ 先生 VS 生徒のやりとりの限界（単調＋先生が言わないと生徒は言わない）
- ✓ What is special about today? Everyday is a special day.
- ✓ Question talk
- ✓ Skill up Talk

1. Who are you talking to? Change your English!
2. No pause. Say something.
3. Correct your English.
   Help your partner's English.
4. Echo – Repeat your partner's English.
5. Signals between a speaker and a listener
6. Ask each other as often as you want.
7. Try to be nice

✓ Debate

1. Opinion と Reason をちゃんと話すように
2. 話しように仕様なのだけど，聞くこと＝Judge が大事
3. ３人セット（Yes（１分間）→No（１分間）→Judge（１分間））
4. Judge は両方ちゃんと聞かないといけない





まとめ　話しやすさの発見

何かを教える時間ではない，聞き手を育てて話しやすくしている

1. **聞き手から話が始まる**→Prologue: Awaking of the listeners
2. **話しが続くのは「場」の力**→Listeners find speakers.

3. **英語をコントロールしない**→Start talking with “What to say”
いっちゃいけない，これ言わなきゃいけない，とはしない
直しもしない（相手がうんうんと頷いて，会話が続いている限りそれでよし）
4. **「直し」は準備ができてから**→Cannot fix what you cannot see.
間違い恐れない態度を指導する，どうするか？間違えた人手をあげて！＝間違えを自分で見つけた人をあげて！この状況になってやっと間違いを直してあげられる。つまり，話慣れていることが大事。

参加者から

Q： Small Talk で，話し出しをどうするかについて指導されていたことはありますか？

A：（杉本先生）こんな質問，こんな話題でどうぞと投げかけることはありますが，常に質問で。投げかけ方については,「こうしなさい」ではなく「こう仕掛けていくといいのでは？」とします。時間はかかるかもしれないけど，先生の立場からするとやっぱり「待つこと」ですね。

Q： Small Talk で「活動→指導→活動」といって，一度やらせてみて，うまく言えなかったことがあれば指導して，それを踏まえて再度指導するという取り組みをしている先生がいたのですが，先生はどうお考えですか？杉本先生はやられていませんでしたが。

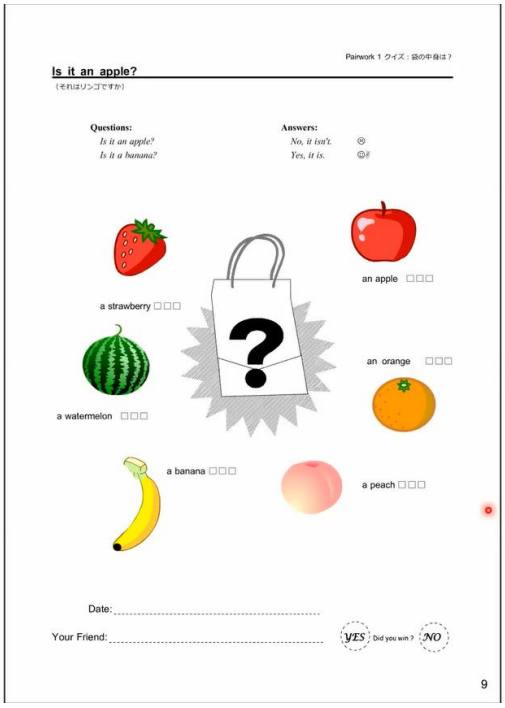
A：（杉本先生）なんせ，常に時間に追われていたので，そういう時間をとるという前提がない。だから，机に「I really wanted to say… but I couldn’t.」という紙を置いておいて，言えなかったことをメモするようにする。授業後に ALT を回答を書いたり，集めて一覧にしたりした。あまりその場にパッとに答えを与えることはしなかった。その時にパッと答えを教えるほうが親切と考えるかもしれないが，英語の思考が途絶えちゃうと考える。英語の教室に入るときに，英語の世界に頭と気持ちを切り替えて入ってくるようにしているので，そう簡単に日本語の世界と出入りしないで，困ったら困ったまんまでという感じです。途中で指導を入れると，日本語をはさむことになりそこで英語の思考が途絶えてしまうことをずっと心配している。

Q：単語テストを脱文脈の中でやることに意味がないと指導された。(野球⇔baseball というテスト）

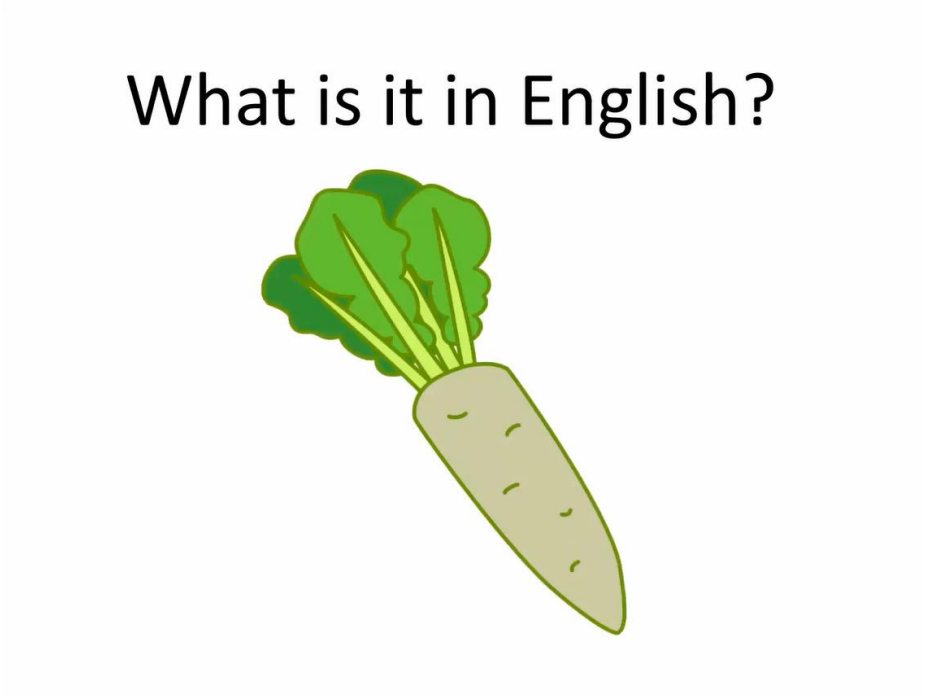
A：（杉本先生）これは，意味ないですね。まったく暗記の訓練ですね。点数を何点取るかという意味はあるけど，それができたから英語の力がどうこうは意味がない。だから，自分の授業の目標を考えると路線から外れる。I want to play baseball.という文の中で baseball が書けることは意味があると思う。play だけをかけても意味がないと思う。英英辞典のように，英語で definition を与えて単語を書かせるような活動はしたかな。でも，定期テストで日本語から英語を 1 対 1 でかかるような問題を出したことはないですね。

Pair Work　３つの言語活動第３の視点

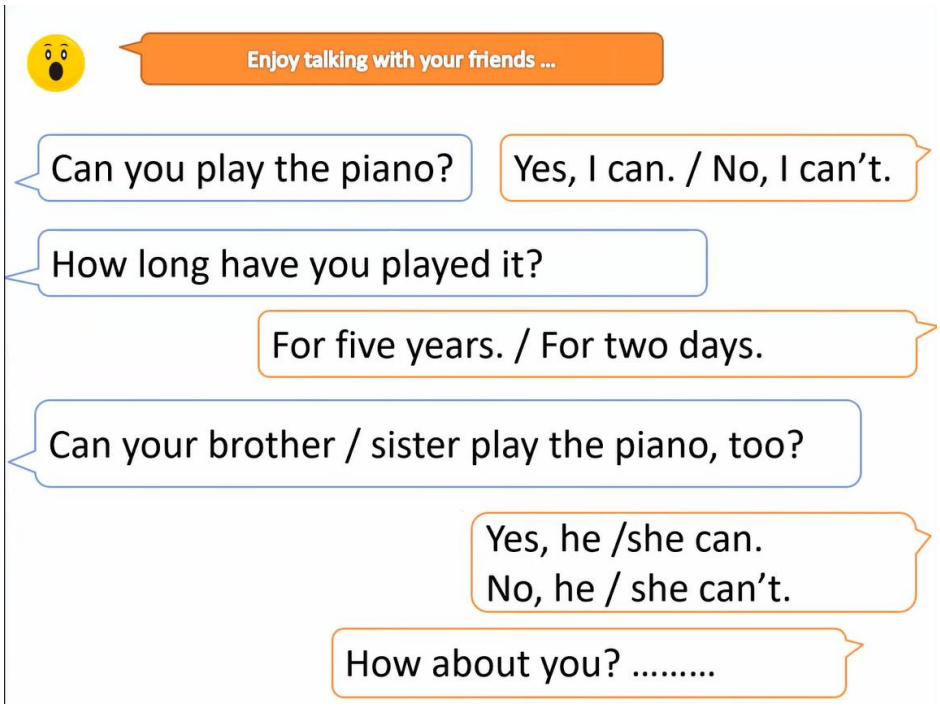
- ✓　３年間で 120～130 回くらいやっている活動（BINGO の次に長くやっている活動）
- ✓　はじめは，紙袋の中にくだものの模型を入れて，当てさせる活動をする
- ✓　その次は，生徒同士でやれるように，紙袋を全員に持たせてやるのは難しいので，紙袋の中にひとつくだものを入れたことにして，相手に見えないようにして当てっこする。相手より先に当てたほうが勝ち。



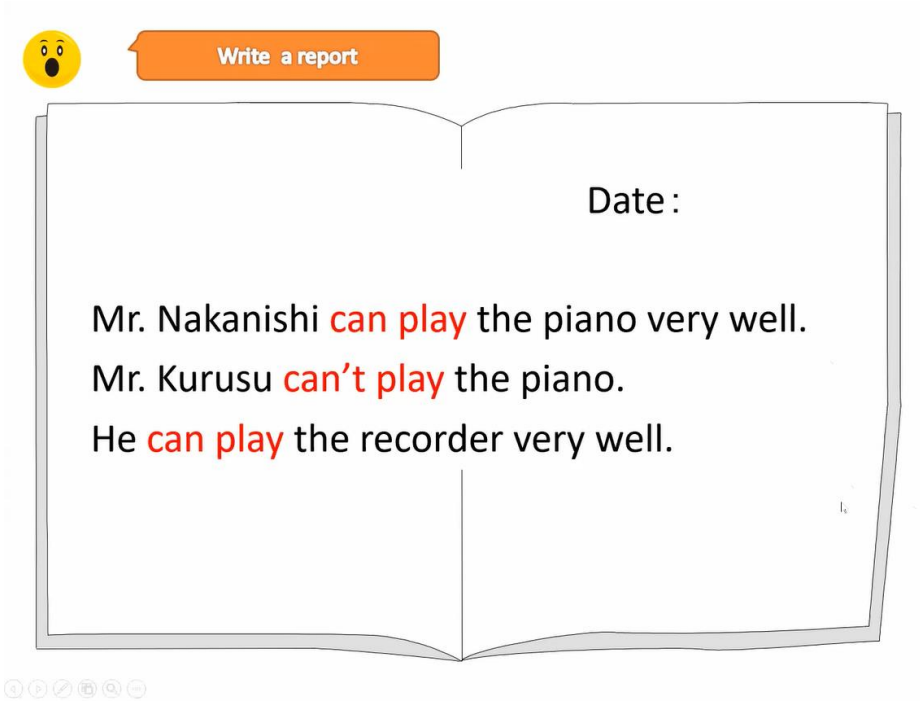
- ✓　最終的にはスライドにしてしまう



- ✓ プリントでやっていた時は，生徒は下を見て活動していたが，スライドにしてからは，教師は生徒がちゃんと自信をもって発音しているか確認できるようになった。
- ✓ 三人称単数は 30 回以上やる。そのくらい繰り返すので効果はかなりあったと思う。
- ✓ 終わった後に，ペアでトークさせる（以下は Can you～？の後の例）
  ここは自分の本当のことを言う
  家族や友達のことなど，話題をどんどん広げる



- ✓ ペアトークの後，ペアで話した相手のことを書いてごらんとする



- ✓ 「間違いに気がついた人は手をあげて」として，よく出来だねと褒めて終わる

How to Pairwork

1. Introduce today's topic.→Guess topic
2. Target expression/question style.→Simple understanding.
3. Vocabulary→Pictures/Words
4. Question practice→pattern practice
5. Make quiz/Choose answers.→For the game
6. Play game.→Ask/answer
7. Small talk pattern.→with basic sentence practice
8. Small talk. → Free small talk
9. Take notes/writing practice.→writing practice
10. Check writing→check

Pairwork のまとめ

1. 活発に質問しあう→Guess work = information gap
2. 語彙は話題から→vocabulary speaks
3. 言えるまで練習してから→ "pattern practice" required
4. ゲームで楽しく→daily routine
5. 話して，書いて→Always listen, talk, read & write

「ひとり」から「ペア」へ

1. 「基礎・基本」は発展しながら定着する＝基礎基本ばっかりやるのはやさしいようで実は難しいと思っている
2. ひとつの技能を育てるのは他の技能，すべて関連している＝ひとつの技能はそればっかりやって育つものではなく，他から刺激していかなければ駄目だ
3. 話すのは生徒，使うのは生徒，スペースが必要→きっかけを与えたらあとは待つこと
4. 英語力は「ふたり」とも「みんな」一緒に高まる＝１人だけやって自分だけ上手になることはない

言語活動が英語の授業を成立させる　今日のまとめとして

1. 言いたいことは「同時」に「双方」に生まれる→そうでないと盛り上がらない
2. 技能はセットでまとめて刺激する
3. 楽しい活動である
4. 毎日できる＝継続性＋持続性＝やり方には説明が要らない
5. 「機械的」で「単純」で「面白みのない」練習が必ず伴う→これらが面白くて楽しい活動を助けている

丹藤先生から

- 資料を見て，とても時間と熱意をかけて，教材を作成されているのかが分かる
- 逆に，子どもに示す資料はシンプルでフレキシブル
- これが長く続けるコツだと感じた
- 現在，言語活動が中心で練習はあまりいいイメージでとらえられていない，発信されていないが，面白みのない，機械的なドリルはゼロではいけない
- 現在は，「知識・技能」と「思判表」は同時進行とされることが多いが，やはり「知識・技能」がしっかりされていないと自信をもって次にいけないと思う。このあたりの配分は実践を重ねて検証していかなければいけない
- ブレークアウトルームで「Small Talk のトピック集」を作ってほしいという現場の要望があることが話題になった。しかし，いろんなアイディアを教員が頭を絞り試行錯誤しながら，まさに杉本先生が提示して下さったような作業なのだが，こういうことを教員がやらなくなったら，いろんな場面で対応できなくなってしまうのでは？何でもかんでも出版社などにたよってしまう，便利になると教員の資質能力の低下につながると思う。頭絞っていろいろ教材を考えるのは汎用的な能力だと思う。今回，杉本先生が提供して下さった教材もそのままというわけにはいかないので，自分の子どもたちの実態を踏まえてアレンジすることが大事。そうでないと自分の中に落ちていかないと思う。

おわりに

もう，さすがとしか言いようがない内容に圧倒されっぱなしの３時間でした。杉本先生の授業を大学院生時代に初めて拝見して以来，それに近づこうと，授業を見に夜行バスに乗って東京に行ったり，自分の授業のビデオを送ってご指導いただいたりとしてきましたが，その度に新しい発見があります。

また，現在完了のところで「説明はできるけど，実際できない」は，僕にとっての授業も同じで，「生徒が自分から口を開くまで，待つこと」や「間違いは生徒が気付いてないうちは無理に直さない」など，これまで何度もご指導いただいてはいるのですが，実際の授業でできていないことがたくさんあります。僕自身，中学生には英語を教えることはなかなかできませんが，大学の教養教育の英語の授業で，杉本先生に少しでも近づけるようにがんばろうと思えた研修会でした！

杉本先生，お忙しいところありがとうございました。

（文責：佐藤　剛）